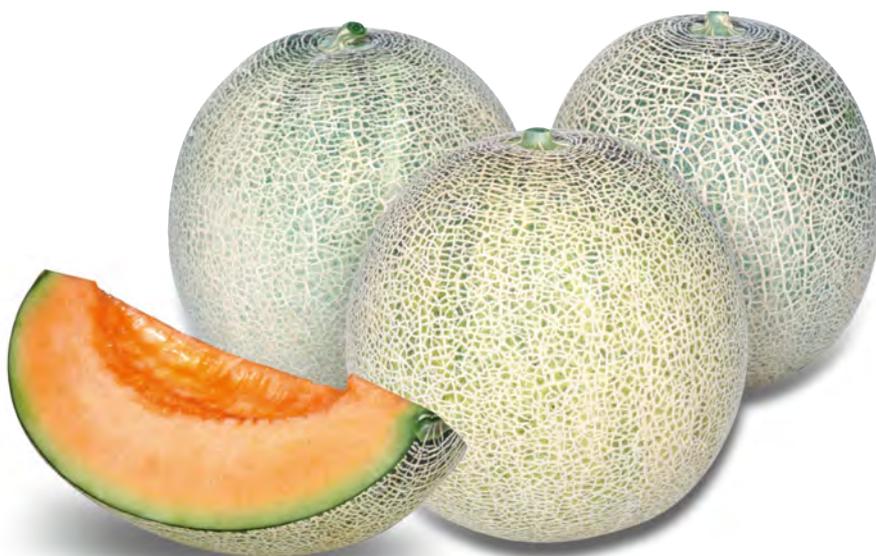


いち ぼ こう じ
 市場小路レッド

食味に当たりはずれのない
 這作り赤肉ネットメロン！

特性

- ① 濃緑大葉で草姿がやや大きく、草勢が強い。
- ② 雌花着生が優れ、低温寡日照下でも着果が安定しています。
- ③ 果実は、重さ1.4～1.6kgのボリューム感のある腰高球形に良く揃います。
- ④ 果肉が厚く、肉質は緻密です。糖度は15度程度に安定しています。
- ⑤ 発酵果・うみ果の発生が非常に少なく、日持ちが抜群に良い品種です。



栽培のポイント！

作型

関西・北陸地方では3月下旬～4月初旬播種の作型に適します。
 東北・北海道地方では4月上旬～5月初旬播種の作型に適します。

栽培様式

株間70～80cm、畝幅230～270cmとします。導入初年度は株間80cmとし、実績に応じて徐々に狭くします。子つる2本仕立てで、着果数は株当たり4果とします。

施肥

標準施肥量はチツソ：8～12kg、リン：20～25kg、カリ：15～20kgです。全量元肥でも良い。有機質主体の緩効性肥料を使用します。砂丘地では追肥が必要です。追肥時期は開花期直前とネット発生期の2回です。定植後の生育が悪い場合は、つなぎ肥を施用します。

着果方法

ミツバチ交配を行って下さい。

灌水管理

定植時の土壌水分が十分ならば、開花期まで灌水は不要です。ただし、乾燥しやすい土壌ではつる伸びを促すために適時灌水します。根張りを良くするには、着果期までの灌水を必要最小限に控えます。一方、最も水分が必要な着果機～ネット発生前は十分に灌水します。開花後40日以降は、草勢を保つための最小限の灌水とします。

温度管理

播種床の温度は30℃に保ち、出芽後直ちに25℃に下げ徒長を防ぎます。鉢上前に温度を23℃に下げ、25℃の鉢に移植します。活着後は徐々に温度を下げます。定植直前には15℃まで下げて馴化させます。定植圃の地温は18℃以上とします（最低15℃以上必要です）。

病害虫対策

うどんこ病・つる割病に抵抗性があります。接木は不要です。
 果痕部（果実底部）の窪みから腐敗病が浸入しやすいため、メロンマット等を使用し、果実底部が常に乾燥状態を保つように管理します。さらに、収穫2週間前頃に果実底部が手前を向くように果実を横向けにして、殺菌剤を散布します（収穫1週間前にも実施します）。

収穫・出荷

収穫の目安は、開花後日数と果実底部からの色上がりや果痕部のひび割れなどです。最終的には試し切りを行い、糖度の上昇を確認してから収穫します。収穫は気温の低い朝方に行います。収穫直後は果肉が硬く、食べ頃は4～5日後です。その後7～10日が適食期となります。